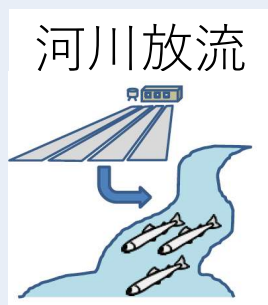


サケの海中飼育の日数を見直す

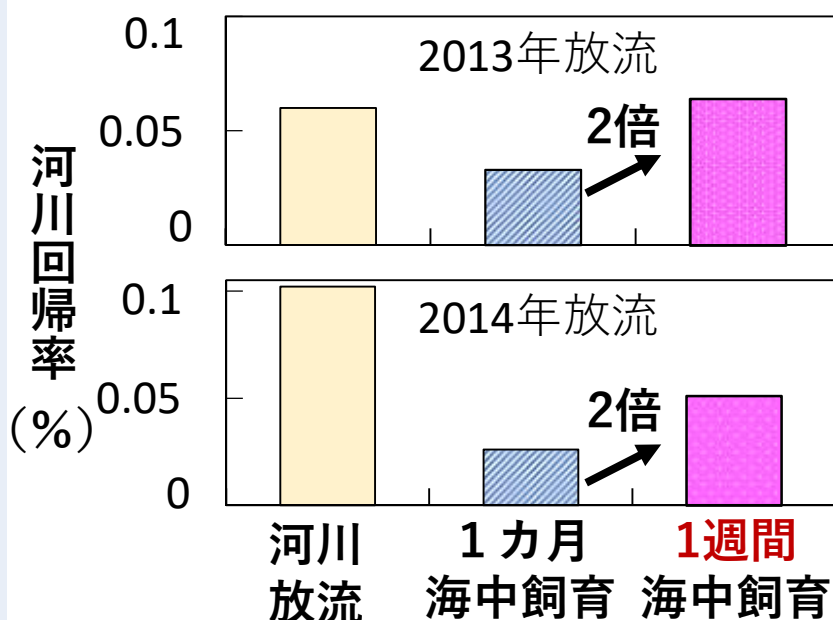
技術の概要

サケ稚魚の放流方法には、ふ化場で育てた稚魚を川に放流する「河川放流」と、海のいけすでさらに育てて放流する「海中飼育放流」の2通りがあります。海中飼育放流は普通、稚魚を1か月ほどいけすで飼育しますが、期間を1週間に短縮した場合の回帰率(親サケが帰ってくる割合)を調べました。

その結果、いけすで1週間飼育したサケは、1か月間飼育したものよりも約2倍多く帰ってきました。



海中飼育放流



期待される効果

- ・これまでの方法を見直すことで、サケの回帰率を改善できる可能性が示されました。
- ・海中飼育の期間を短縮できれば、いけすの管理やエサやりにかかる費用や労力を減らせることが期待されます。

【お問い合わせ先】

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 東北区水産研究所
さけます資源グループ 八谷三和 ysmiwa@affrc.go.jp

当該技術は農林水産省委託事業「食料生産地域再生のための先端技術展開事業」の成果です。